再考、ESG投資―統治要素以外の社会・環境の要素から―［第１回］

ESG活動の動機と長期投資家
―理論と実証から―

白　須　洋　子

目　　次

１．はじめに
２．ESG投資と企業価値
３．長期機関投資家と社会的活動
４．サプライチェーンと社会的責任
５．インパクト投資
６．カーボンリスク
７．ダウンサイドリスク、モメンタム効果、コモンオーナーシップ、グリーンボンド
８．その他の議論
９．ESGの長期投資に関する実証分析
10．シリーズの今後の予定

今月号から、「再考、ESG投資―統治要素以外の社会・環境の要素から―」という統一テーマの下、ESG（特にEとS）のベースにある考え方、実証分析例、近年の議論等を、内外のファイナンス研究者や関連分野の研究者らでリレー執筆する。

第１回は、「ESG活動の動機と長期投資家―理論と実証から―」として、全体を俯瞰する。ESGと企業価値、株主・ステークホルダーとの関係について、長期投資の視点から述べる。また、最近のトピック的な文献を紹介する。サプライチェーン、インパクト投資、カーボンリスク、ESGモメンタム効果等に触れる。最後に日本における長期投資とESGの関係についての実証分析を示す。なお、本稿は本文と補論で構成されており、詳細を補論で述べている部分については本文中に注が付されている。

１．はじめに

近年、ESGの議論が実務および学界とも盛んである。ESGは企業の社会的活動のうち、環境（E）、社会（S）、ガバナンス（G）の三つの要素に注目した表現であるが、このうちGについては比較的対応が進んでいるものの、EとSについては曖昧な部分が多いことが現状である。炭素排出量の議論は例外的に進んでいるが、その他については、情報公開や不祥事回避の議論が中心であり、対応が進んでいるとは言いがたい。そこで、「再考、ESG投資―統治要素以外の社会・環境の要素から―」という統一テーマの下、ESG（特にEとS）のベースにある考え方、実証分析例、近年の議論



白須　洋子（しらす　ようこ）
青山学院大学経済学部教授。横浜国立大学大学院博士後期課程修了。博士（経済学）。